

課題実技

担当教員 武田 州左 千々岩 修 國司 華子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一
郎 中野 嘉之 岡村 桂三郎 米谷 清和

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 8.0

準備事項

備考 助手：日比野 拓史

【授業のねらい】

素描力の養成を目指し、日本画の絵の具、素材、用具の基礎知識、基礎技術を習得する。
さまざまな課題を通し、自由に創造的な表現を实践する為の基本姿勢を育成する。

【授業の展開計画】

週 授業項目

1,2	ガイダンス / 日本画の絵の具、用具の説明。
3~5	植物制作（鉄砲百合） / デッサン
6~9	植物制作（鉄砲百合）
10~12	人物制作（裸婦） / デッサン
13~16	人物制作（裸婦）
17~19	動物制作（チャボ） / デッサン
20~23	動物制作（チャボ）
24,25	風景制作 / デッサン
26~30	風景制作

内 容

- ・ 仮張り（鳥の子紙使用）の仕方。ドーサ・胡粉・水干絵の具・岩絵の具の溶き方・塗り方、それにとまなう道具の使い方の実習。* 山中湖ゼミ（スケッチなどをおこなう。）
- ・ 有機的な物へのアプローチ（植物）
- ・ 植物制作を通して、日本画の絵の具・用具・技法の実習。
- ・ 形態の把握、構成力の養成を目指し、基礎表現技術の習得をさせる。

- ・ 有機的な物へのアプローチ（人物）
- ・ 形態の把握、構成力の養成を目指し、基礎表現技術の習得をさせる。（雲肌麻紙又は他の種類の紙も使用）

- ・ 有機的な物へのアプローチ（チャボ）
- ・ 形態の把握、構成力の養成を目指し、基礎表現技術の習得をさせる。（絹本使用）

- ・ 有機的な物へのアプローチ（風景）
- ・ 形態の把握、構成力の養成を目指し、基礎表現技術の習得をさせる。
（助手：日比野拓史）

【履修上の注意事項】

【評価方法】

作品制作の提出

- ・ 全教員による合同批評会の評価を重視する。
- ・ 形態の把握について評価する。
- ・ 彩色に於ける基本的な技術の習得に対して評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

課題実技

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 8.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

1年次に引き続き、日本画材の基礎知識を習得することを目的とする。
同時に、より自由な発想で表現の幅を拡げて行うことを目指し、人物・植物・風景・動物制作等の課題を設定。
課題制作を通し、形態を把握する基礎力を身に付けると共に素材に対する認識が更に深まることを期待する。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	ガイダンス	
2~3	人物制作（裸婦）/ デッサン	人物制作（裸婦） ・有機的な物へのアプローチ ・人体の持つ有機的なフォルムをしっかりと把握する。
5~8	人物制作（裸婦）	
9~11	動物制作 / デッサン	動物制作 ・動物の形態を把握し、豊かな発想で画面構成を試みる。
12~15	動物制作	
16~18	人物制作（群像）/ デッサン	人物制作（群像） ・複数の人物の形態の把握・構成・表現技術の習得。
19~22	人物制作（群像）	
23~25	風景制作 / デッサン	風景制作 ・写生を通して、自然から学ぶ描写の基本を身につけると共に、独特な発想力と思考力を養う。
26~30	風景制作	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

作品制作の提出

- ・全教員による合同批評会の評価を重視する。
- ・形態の把握について評価する。
- ・彩色に於ける基本的な技術の習得に対して評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

課題実技

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 3年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 8.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

自由制作が中心になるが、独自の表現方法の習得、描写力の充実とともに各自主体的・自主性をもって創作活動をする。

表現に必要な技術を習得し、創造的な精神を形成する。

【授業の展開計画】

週 授業項目 内 容

1 ガイダンス

2~7 自由制作A

- ・ 前課題を踏まえた上で、自由に作品を構想し制作する。
- ・ 独自の着眼点を持ち、主題、絵画構造、表現方法を発想する。
- ・ 写生等の取材を積極的に行い、制作のために必要な多くの素材を集める。
- ・ エスキース等によって試行を繰り返し、実験的精神を養う。
- ・ 日本画材料についての知識を深め、表現技法の更なる習熟を目指す。
- ・ 制作ノートを提出し、講評会を行う。

8~11 自由制作B

- ・ 前作を踏まえ、内容をより深める。また、その反省点から新たな表現へと作品を展開する。
- ・ 絵画構造や表現方法、技術の習得に止まらず、自らの発想の拠り所となっている原点について思考する。
- ・ 以下、自由制作Aと同じ。

12~15 自由制作C

- ・ 前作を踏まえ、より、独自の表現を試行する。内容を更に深め、充実を図る。
- ・ 以下、自由制作Bと同じ。

16~23 自由制作D

- ・ 前作を踏まえ、より、独自の表現を試行する。内容を更に深め、充実を図る。
- ・ 以下、自由制作Bと同じ。

24~27 自由制作E

- ・ 前作を踏まえ、より、独自の表現を試行する。内容を更に深め、充実を図る。
- ・ 以下、自由制作Bと同じ。

28~30 自由制作F

- ・ 年間の成果を問う。
- ・ 前作を踏まえ、より、独自の表現を試行する。内容を更に深め、充実を図る。
- ・ 以下、自由制作Bと同じ。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

- ・ 全教員による合同批評会の評価を重視する。
- ・ 独創性、発想の展開、想像から創造へ等を総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

課題実技

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 6.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

より高度な技術力、創造性を一層深め自由な課題で独自の発想を重視し、自分の感性の表現力をつけ、創作活動を行う。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
---	------	----

1	ガイダンス	
---	-------	--

2~14	自由制作	
------	------	--

15~30	自由制作	
-------	------	--

- ・3年間のさまざまな課題実技による制作を基盤として、各自が自主カリキュラムによる自由制作で自己表現の成長を促す。
- ・創造力・表現力を養い育成し、独自の自己表現の確立を目指す。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

作品制作の提出

- ・全教員による合同批評会の評価を重視する。
- ・形態の把握について評価する。
- ・彩色に於ける基本的な技術の習得に対して評価する。
- ・創造力・表現力を総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

日本画実技

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 5.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

年間を通し、課題実技 から学んだ様々な技術、特に新しく湧き出る発想を、この日本画実技 で発表し、より集約された作品の発表の場としての価値を高める目的をもっている。

【授業の展開計画】

週 授業項目 内 容

1 ガイダンス
2～15 日本画実技 夏季コンクール
16～30 日本画実技 冬季コンクール

日頃の課題制作とは別に、創作に於ける学生1人1人の自主性を養い、個々のテーマをより深く掘り下げることを目的に、コンクール形式の批評会を実施。

自由なテーマで描かれた学生の作品は、担当教員全員で講評する。

将来の作家活動にも繋がる、拓かれた発表の機会と考え、優秀作品は選抜の上、絵画北棟ギャラリーに展示する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出作品（作品内容、大きさ）の評価を重視する。

- ・テーマの設定に対する評価
- ・発想の展開に対する評価
- ・想像から創造へ等を総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

日本画実技

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 5.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

課題実技 で学んだ基礎力を更に高め、新たにわき起こる発想をより豊かに育てることを目標とする。

【授業の展開計画】

週 授業項目

内 容

- | | |
|-------|---------------|
| 1 | ガイダンス |
| 2～15 | 日本画実技 春季コンクール |
| 16～30 | 日本画実技 夏季コンクール |

日頃の課題制作とは別に、創作に於ける学生1人1人の自主性を養い、個々のテーマをより深く掘り下げることが目的に、コンクール形式の批評会を実施。

自由なテーマで描かれた学生の作品は、担当教員全員で講評する。

将来の作家活動にも繋がる拓かれた発表の機会と考え、優秀作品は選抜の上、絵画北棟ギャラリーに展示する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出作品（作品内容、大きさ）の評価を重視する。

- ・テーマの設定に対する評価
- ・発想の展開に対する評価
- ・想像から創造へ等を総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

【美術学部 日本画】

日本画実技

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 3年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 5.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

年間を通し、課題実技 から学んだ様々な技術、特に新しく湧き出る発想を、この日本画実技 で発表し、より集約された作品の発表の場としての価値を高める目的をもっている。

【授業の展開計画】

週 授業項目

1 ガイダンス
2～15 日本画実技 春季コンクール
16～30 日本画実技 夏季コンクール

日頃の課題制作とは別に、創作に於ける学生1人1人の自主性を養い、個々のテーマをより深く掘り下げることを目的に、コンクール形式の批評会を実施。

自由なテーマで描かれた学生の作品は、担当教員全員で講評する。

将来の作家活動にも繋がる拓かれた発表の機会と考え、優秀作品は選抜の上、絵画北棟ギャラリーに展示する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出作品（作品内容、大きさ）の評価を重視する。

- ・テーマの設定に対する評価
- ・発想の展開に対する評価
- ・想像から創造へ等を総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

日本画実技

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 4.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

年間を通し、課題実技 から学んだ様々な技術、特に新しく湧き出る発想を、この日本画実技 で発表し、より集約された作品の発表の場としての価値を高める目的をもっている。

【授業の展開計画】

週 授業項目

内 容

1 ガイダンス
2～15 日本画実技 春季コンクール
16～30 日本画実技 夏季コンクール

日頃の課題制作とは別に、創作に於ける学生1人1人の自主性を養い、個々のテーマをより深く掘り下げることを目的に、コンクール形式の批評会を実施。

自由なテーマで描かれた学生の作品は、担当教員全員で講評する。

将来の作家活動にも繋がる拓かれた発表の機会と考え、優秀作品は選抜の上、絵画北棟ギャラリーに展示する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出作品（作品内容、大きさ）の評価を重視する。

- ・テーマの設定に対する評価
- ・発想の展開に対する評価
- ・想像から創造へ等を総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

材料基礎学

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2.0

準備事項

備考 助手：日比野 拓史

【授業のねらい】

日本画の絵の具、素材、材料に対して表現技術の習得は、これらの実習を通じて自由な創造を实践する為の基本姿勢の育成を目標とする。

【授業の展開計画】

週 授業項目

内 容

1 ガイダンス
2～30 材料基礎学

- ・日本画の絵の具、素材、材料に対しての表現技術の説明と実習。
- ・箔実習、絹本実習
- ・油合同技法講座（映像、シルクスクリーン、銅版画、テンペラ、樹脂、陶芸、パフォーマンスの講座から選択）
- ・日本画技法以外の素材や可能性についての認識を深める。
（助手：日比野拓史）

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出作品（作品内容、点数）及び、出席を総合的に評価する。
・上記授業内容に基づき、その実験内容及び制作に於ける成果を評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

材料基礎学

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本画材を自由に駆使する為の基礎的な技術を、下記の実習を通し、より深く学ぶ。
単なる技術習得に留まることなく、創作の根幹に触れる指導としたい。

【授業の展開計画】

週 授業項目

内 容

1 ガイダンス
2~30 材料基礎学

- ・日本画材ならではの、表現技術の説明と実習。
- ・表具実習（半田昌規）
紙の種類知識、裏打ち方法等の実習
- ・絵の具実習（関根秀樹）
日本画の絵の具の作り方。
絵の具となる原石の種類や材料の講義。
膠についての講義。
- ・筆実習（阿部信治）
平刷毛・彩色筆・面相筆等、筆の基本的な造り方の講義。
- ・模写実習（沼田修）
中国、宋元画等から線の把握・技術・形態を習得する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出作品（作品内容、点数）及び、出席を総合的に評価する。
・上記授業内容に基づき、その実験内容及び制作に於ける成果を評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

日本画特論

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 3.0

準備事項

備考 (デザインを含む) 助手：日比野 拓史

【授業のねらい】

基礎デッサンをおこなうことにより、素描力を養い、自由な作画の基本となる力をつける。

【授業の展開計画】

週 授業項目

内 容

1 ガイダンス
2～30 日本画特論

デッサン(制作にする為のプロセスでもある)

(助手：日比野拓史)

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出作品(作品内容、点数)及び、出席を総合的に評価する。

・出席を重視し、レポート提出により、各自授業内容について、理解力、把握力を評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

日本画特論

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 3.0

準備事項

備考 (デザイン を含む)

【授業のねらい】

基礎デッサンをおこなうことにより、素描力を養い、自由な作画の基本となる力をつける。

【授業の展開計画】

週 授業項目

内 容

1 ガイダンス
2～30 日本画特論

デッサン（制作にする為のプロセスでもある）

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出作品（作品内容、点数）及び、出席を総合的に評価する。

・出席を重視し、レポート提出により、各自授業内容について、理解力、把握力を評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

日本画特論

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 3年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 3.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本画特論、を基にして、より実践的な知識 技術を学ぶ。

【授業の展開計画】

週 授業項目

内 容

1～30 日本画特論

・日本画ゼミ（講義・ディスカッション・実習）

日本画の技法その理論と実践。

日本画の新たな可能性を探る。（岡村桂三郎、武田州左）

・和紙ゼミ（池崎義男）

世界の紙作り技術／日本の和紙の誕生と歴史／原料の煮方の講義。

各自で原料（楮）を煮る。ネリをつくる。

流し漉き技法、溜め漉き技法、透かし紙の実習。

楮を使用し自由課題制作。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出作品（作品内容、点数）及び、積極性、学習意欲、出席率等を総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

特別実習

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 3年

開講時期 通年

単位区分 自由

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

素材の原点をさぐること、製造されたものから新しい発見を求める。
また古画の作品から、より優れたものへの出会いが、自己の追求につながることを望んでいる。

【授業の展開計画】

週 授業項目

内 容

1 ガイダンス
2～30 特別実習

- ・ 絵の具、胡粉、墨などの製造方法や歴史の知識を深める。
- ・ 中川胡粉（京都）／墨運堂（奈良）など製造元への見学。
- ・ 二条城模写室（京都）への見学。
- ・ 京都、奈良の神社・仏閣・美術館等を訪ね、鑑賞眼を養う。

* 中川胡粉（京都）：天然、人造絵の具の製造現場である日本画の岩料及び、胡粉が以下に造られているかを学ぶ。

* 墨運堂：墨に於ける製造のプロセス、墨の種類、等全般の知識を得る。

* 二条城：二条城模写室の見学、二条城の障壁画の復元模写を実物の障壁画を見学することにより、絵具の変化、実物の筆運び、等々の知識を得る。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出作品（作品内容、点数）及び、出席を総合的に評価する。
・ 上記授業内容に基づき、その実験内容及び制作に於ける成果を評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

特別実習

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 自由

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

新しい日本画を創造する為の重要な素材のひとつとして、墨と和紙を捉え、技術・表現を学び、岩絵具との差異を探る。歴史上の絵画として、現代の日本画をどう捉えるかを考える。

【授業の展開計画】

週 授業項目

内 容

1 ガイダンス
2～14 特別実習
15～30 特別実習

ゼミ
(中野嘉之) 墨の技法とその実践。
(米谷清和) 日本画家の歴史と現代。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出作品（作品内容、点数）及び、出席を総合的に評価する。
・上記授業内容に基づき、その実験内容及び制作に於ける成果を評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

卒業制作

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左 千々岩 修 國司 華
子 酒井 祐二 坂本 藍子 佐藤 裕一郎

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 12.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

4年間の実技制作の技量と自己の発想の発展が、この時期に集約される。より研ぎ澄まされたものが要求される。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	ガイダンス	
2～30	卒業制作	
15～30	卒業制作	

- ・卒業制作に於いて4年間の成果を問う。
- ・卒業制作に向けての取材、写生、下図を経て制作を実践する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出作品（作品内容、大きさ）の評価を重視する。

- ・テーマの設定に対する評価
- ・発想の展開に対する評価
- ・想像から創造へ等を総合的に評価する。
- ・創造力・表現力を総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし